

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372300857		
法人名	株式会社 スエトミ		
事業所名	グループホーム まごころ		
所在地	宇城市松橋町松橋1621-1		
自己評価作成日	平成31年2月26日	評価結果市町村受理日	平成31年4月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」		
所在地	熊本県熊本市中央区水前寺6丁目41-5		
訪問調査日	平成31年3月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は同敷地内に隣接するグループホーム・ドリームまつばせの姉妹施設として開設し4年が経過しました。自然豊かで季節を感じられ、又明るく清潔な環境の中で入所者様は笑顔で穏やかに生活されており、職員も入所者様及びご家族様の安心・満足を得るべく日々のサービス提供や種々の年間行事(年2回の日帰り旅行、お花見、夏祭り、敬老会、クリスマス会等)の提供に連携して取り組んでいます。又、職員は自己のスキルアップを目指し研修や勉強会に参加することでケアの質の向上に努めています。職員と入所者様が外出や家事作業・レクリエーション等を共に楽しむ活気と笑顔ある施設です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・ホームの前に同法人が運営する保育所があり、子どもたちの元気な声・走り回る姿など、リビングに居ながら様子を覗うことができる。ボランティアによるリハビリ体操が行われる際は、入居者と一緒に幼児たちも参加しており、ふれ合いや交流は日常的に行われている。
 ・阿蘇や天草への日帰り旅行や、菜の花・桜・ひまわり・コスモスなど、季節を楽しむドライブ等、外出支援も多い。また、夏祭り、クリスマス会、誕生会など楽しい行事も多くあり、入居者の気分転換、ストレス発散、五感を刺激する機会となっている。
 ・食事は職員が献立を作り、入居者と一緒に食材購入に出掛け、調理して一緒におしゃべりしながら食べている。また、食後の片づけ、皿洗いも入居者が手伝っており、自然な中での自立支援となっている。訪問調査日の午後、リビングでは入居者と職員がお喋りしながら笑顔で寛いでいる穏やかな様子が見られた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	5つの理念は玄関に掲示し常に見える化を図っている。又、ミーティング等で掲げ、職員への浸透、共有を徹底し、理念に裏打ちされた実践へつなげている。	「残存能力を活かした自立支援」「寄り添う個別対応」「チームケア」「季節感や清潔感のある環境整備」「地域との交流」等をケアの基本としている。昨年度、目標として掲げた「ある入居者の唾吐き行為」について、全職員で8月に亘り観察・分析・要因探りを行ない、支援の方法を変えて試行錯誤を続けた結果、唾吐き行為が見られなくなったという結果に繋がっている。チームケアによる個別対応の実践を見ることができた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所は地元企業クラブへ所属し企業間交流への参加他、地元小学校への雑巾寄与を実施、入所者様は地区行事への参加にて地域との交流に取り組んでいる。	地元企業クラブ開催のボーリング大会に職員が出場したり、ゴミ拾いのクリーン作戦には職員が入居者と一緒に参加している。入居者は地区公民館で開催される映画上映会の観劇を楽しんだり、手縫いの雑巾を小学校に寄付して交流している。職員は地区の防災訓練にも参加して地域の一員として取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて当事業所の取り組み、認知症の方への支援方法、考え方等を発表することで地域の方へ発信、展開している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設での活動実績報告、身体拘束について、毎回一つテーマを決め認知症の理解等の意見交換実施。近隣地区や市との情報交換を行い施設内でのサービスへ展開するようにしている。	運営推進会議は隣接する同法人内のグループホームと合同で開催され、地域代表・包括や行政の職員・家族代表等の参加を得ている。家族の参加は交替とし、毎回、家族の思い等を話してもらう機会を設けている。入居者の状況・活動報告の他に、他ホームで起きた事件についての事例検討や、身体拘束等についての報告等が行われている。	議事録は、毎回職員が交替して作成している。記録を担当する職員によって記録内容や書き方に差異が生じず、分かりやすい議事録となるために、記録のとり方の検討も期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護認定更新書類等の提出は担当が行政へ出向き、又来訪時も直接対応することで信頼関係を築いている。運営推進会議での意見交換等でも協力関係を築いている。	行政の担当者と包括支援センター職員が運営推進会議に出席しており、情報共有や相談等協力関係が構築されている。介護相談員は2か月に1回来訪している。宇城市高齢介護課と包括支援センター等が協力して地域住民のために施設見学を実施し、ホームの見学も行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束に関する規範に基づき、全職員へその内容を理解させたうえで安全に配慮し身体拘束しない支援に努めている。職員は見守り重視のケアに努めている。	身体拘束等の適正化のための指針を整備し、運営推進会議開催時に「身体的拘束適正化委員会」を実施し、事業所の取り組みについて説明している。職員は安全を確保しつつ抑圧感のない、見守り重視のケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は研修会への参加、勉強会にて理解を深め徹底し連携することで虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は研修にて制度への理解を深め、必要な場面で助言、活用が出来るように備えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約時は「重要事項説明書」に基づき資料読み合わせ実施、説明内容について疑問点など質問も受け付け十分納得して頂いたうえでの承諾を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関へご意見箱設置、常に利用者様やご家族の意見を反映出来る体制を整えている。重要事項説明書へも記載。来訪時には入所者様の日頃の様子をお伝えし信頼関係を築くようにしている。	家族には毎月、施設の広報誌「まごころだより」を送付し施設の活動状況をお知らせしている。家族面会時には声掛けを心掛け、入居者の日々の状況を伝え、家族から得られた意見等を支援に反映している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングは上司からの一方通行にならぬよう、職員に意見や要望を揚げてもらい話し合える場を設けており、運営改善に反映出来るよう努めている。	職員ミーティングは毎月、社長・ホーム長の他全職員が参加し、入居者が寛いでいるリビングの一角で行われている。経営者側からの話、現場職員からは気になる入居者についての意見や要望・アイデア等が出され、情報を共有し運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表は管理者や職員の勤務状況把握・評価に努め、資格取得手当や昇給、職場環境の整備等職員がモチベーションを上げ働き易いような環境を提供出来るよう推進している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表は管理者や職員のスキルや学習意欲の把握に努め、種々研修機会の提供、実践における能力向上を推進している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表は管理者や職員の同業者との交流と情報交換を目的に地区の勉強会やミニバレー大会等への参加を推進している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時は以前ご利用されていた病院や他のサービス事業所より情報提供して頂き、又ご本人との面談にて不安や要望等傾聴することで気持ちを汲み取り、安心して入所して頂けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時はご家族様の不安や要望等傾聴し、当施設でのサービス内容、今後ご家族様へ協力して頂く内容等納得し安心して頂ける説明を心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時に利用者様及びご家族様との面接にてアセスメント情報収集、分析したうえで他のサービス(インフォーマル)も含めたケアプラン作成に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者様の生活歴や得意分野を極めたうえで一緒に調理、片付け、洗濯物干し、洗濯物たたみ等の家事作業を行ったりフォローすることで信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族来訪時は絆を深められるような環境提供し、又日頃の様子や体調等をお伝えし、双方から入所者様を支えていけるよう心掛けています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	希望される方には今まで行っておられた地域交流の場への参加や病院受診を支援し、昔馴染みの方からの面会も受け入れ関係が続くよう配慮している。	入居者の高齢化に伴い友人・知人の面会も少なくなっているが、毎月地域で開催されている「茶話会」に参加し、ボランティアによる踊りや歌、演奏等を地域の人々と一緒に楽しめるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様が孤立されたり、入居者様間のトラブルで不快な思いをされないよう常に見守りし、必要な時は職員が声掛けしフォローしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人様退所によりサービスが終了したご家族へもアルバム提供、葬儀参列、今後の相談受け等良好な関係性が継続できるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の中でご本人の思いをくみ取り把握に努めている。意向を確認するような声掛けを心掛け、困難なことも支援方法を検討し支援している。	言葉での表現が困難な入居者の場合、顔の表情、手の動き等から意向を把握したり、“はい・いいえ”の質問で回答がしやすいように配慮し、要望の把握に努めている。家族から情報を得たり、声掛けの仕方を工夫し、入居者の視点を大切に支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からの情報、以前利用されていた施設のサマリー等を職員全員で共有し、折に触れご本人様から少しずつ情報収集もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の気づきを申し送り・経過記録・連絡ノートを活用し、職員間で情報共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	心身の現状に即したケアが実現できるよう、毎月モニタリング実施、又ご本人・ご家族・主治医などの意見を反映したケアプランの作成・更新に努めている。	毎月実施する全入居者のモニタリングは、職員が交替しながら行う体制で、様々な角度からの気づき等を大切にしている。ケアプランは、自立支援・地域との交流などを基本に本人や家族の思いを大切に、主治医の意見を参考にして6ヶ月ごとに見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様一人ひとりその日の体調や日常生活の様子等日々の記録として残し、気づいた点はその都度職員間で情報共有し、支援内容の変更に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	専門医への受診、買い物の支援、急な外出要望等個別対応にて柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の茶話会や映画鑑賞への参加を支援したり、近隣の方をお招きし演奏鑑賞会を実施するなど地域との関わりを図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回主治医による往診を受けて頂き健康状態をチェックしている。体調不良や急変時はその都度往診依頼や、かかりつけ医への受診依頼を行っている。	入居時に同意を得て、協力医をかかりつけ医としており、月1回の定期往診と緊急時の往診や職員同行の受診で適切な医療が受けられるように支援している。認知症の専門医・歯科・眼科等の受診には家族の協力も得ている。また、全入居者が月2回の訪問看護を受けて体調管理を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回訪問看護を受けて頂き日常の体調管理を行っている。体調の変化等気になる点はその都度看護師へ相談し適切な対応に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は日常生活の留意点を情報提供。入院中は職員が度々面会に行き関わりを持っている。退院時は入院中の情報提供して頂き早期の復帰に役立っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の入居者様はご本人及びご家族様の希望に添えるよう十分話し合い、訪問看護や主治医と連携を図りながら又、職員内でも連携し最後まで看取れるよう努めている。(同意書あり)	重度化や終末期に向けた方針を入居時に説明し、「ターミナルケア依頼・受諾書」を作成し意志を確認して同意を得ている。本人や家族の意向を踏まえ、医師、職員が連携を取り、安心して最期が迎えられよう体制を整えている。昨年は一人の入居者を看取り、家族の思いに寄り添う支援が行われている。看取り後は職員ミーティングを実施して振り返りを行い学びを共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時の初期対応や連絡については訓練を実施している。緊急時の連絡体制も整えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回隣接ホームと合同の避難訓練を実施し、災害時にスムーズに避難誘導出来るよう消防署より指導を受けている。又、設備(警報機やスプリンクラー等)の定期点検、消火器の使用訓練も実施している。	マニュアルを作成し、年に2回、隣接するホームと合同で避難訓練を実施し、消防署の協力のもと避難誘導の仕方、消火器の使い方などの確認を行っている。熊本地震の際は、敷地内の井戸水を使用できたため、入浴やトイレ廃水に問題はなかった。今後は、非常用食料や備品等の準備があると、更に安心と思われる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入所者様を人生の先輩として敬う心を忘れず声掛けや接し方に配慮している。居室へのノックや入浴時のカーテン等へも配慮しプライバシーの確保に努めている。	入居者がテレビを見たり、昼寝をしたり、居室でお菓子を食べたり等、居室やリビングで自由に過ごせる環境を作り、さりげなく見守る支援でプライバシーの確保に努めている。自立度の高い入居者の入浴時は、浴室のカーテンを閉めて職員は脱衣所で見守るなど、プライバシーに配慮した適切な介助を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや意向を寄せられるよう声掛けし意思確認している。戸惑われる場合は選択肢を絞り提供することで出来る限り自己決定して頂くよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせて居室やDルームで穏やかに自由に過ごして頂けるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴や外出前にはご本人と一緒に洋服を選び、身だしなみにも配慮している。又、施設内にて訪問散髪も実施している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入所者様に何を食べたいかお尋ねしたり、時にはバイキング料理を提供し楽しんで食事して頂いている。食事の準備・片付けも入所者様と協力して行っている。	入居者と一緒にスーパーで食材購入したり、頂き物の野菜を活用して職員が交替で献立を作り調理して家庭的で美味しい食事を提供している。職員は、昼食・夕食を入居者と一緒におしゃべりしながら食べている。訪問調査日、食事の準備や後片付け、皿洗いなど、入居者が手伝う日常の様子が見られた。また、年に2回、日帰り旅行に出かけ外食したり、敷地内ではバーベキュー・そうめん流しなど、楽しい多くの支援がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取は1500ccを目標に提供。食事もお一人お一人の摂取量や形状を考慮し提供している。栄養状態に合わせカロリー食品も提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず口腔ケアの声掛けを行い口腔清潔に努めている。義歯の方は外して頂き綺麗に洗浄している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立の方は布パンツ着用して頂いている。失禁が気になる方はパット使用して頂き、支援が必要な方は時間を見てトイレ誘導を行い、出来るだけトイレでの排泄が出来るよう支援している。	個々の排泄チェック表から排泄パターンを把握し、本人の生活リズムに沿った支援が行われている。身長が低くて便座が使いづらい人には、台を置いたり、手すりを設置するなど、安心して安全な設備への配慮も見られた。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給には特に気を付けている。便秘気味の方には水分を多く摂取して頂いたり、緩下剤を服用して頂きコントロールしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご自分のペースでゆっくりと入浴して頂けるよう心掛けている。職員と楽しく会話したり歌を唄ったり楽しい雰囲気作りを心掛けている。	入浴は月・水・金の週3回を基本としている。1対1で入浴介助し、演歌や童謡を歌ったり、世間話等を楽しみながら、思いや意向を聞く機会もしている。ゆず湯や菖蒲湯で季節を楽しんだり、ドライブで足湯に出かけることもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各居室の明るさや室温調整に配慮し気持ちよく安心して休んで頂けるよう支援している。入居者様の中にはその日の体調に応じ昼間少し臥床される方も居られる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は全て職員が管理し、服薬時はお一人お一人確認し声掛け提供している。体調の変化等あった場合は主治医やかかりつけ医受診のうえ薬を処方して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	交代で買い物同行して頂いたり、食器拭きや洗濯物たたみ等の家事作業、ラジオ体操やリハビリ体操等で楽しみながら気分転換して頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年2回の日帰り旅行の他、お花見やお祭り見学などドライブへ出掛けたり、近隣への散歩や茶話会・買い物同行等で地域の方との交流が出来るよう支援している。	入居者全員での近隣散歩は日常的に行われている。年に2回、日帰り旅行が計画され、天草や阿蘇へ出かけている。また、菜の花・桜・ひまわり・コスモスなど、季節を楽しむ外出支援も多い。家族と一緒に旅行したり、お墓参りに出かける入居者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が出来る方には少額づつ管理して頂き、希望があれば買い物出来るよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入所者様の希望により家族様への電話の取り次ぎも対応している。携帯電話を使用されている方もおられ充電等も対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やカウンターには入居者様に生けて頂いたお花を飾っている。入居者様が快適に過ごせるよう室温や消臭・空気の入替え等も配慮している。	玄関ホールには、職員が描いた大作の絵画や入居者が活けた季節の花が飾られている。居室に繋がる廊下の天井は高く、心地よい空間となっている。リビングは明るく、畳コーナーが設けられ、ダイニングはオープンカウンター仕様になっている。リビングに居ながら隣接の保育園児が元気で遊ぶ様子を見ることができ、入居者の笑顔に繋がっているように覗えた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	Dルームにはソファー(3箇所)と和室コーナーも設置。デッキにも椅子があり、時にはデッキの椅子にて外の空気に当たり気分転換出来るような支援もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には家具や家電・寝具等、以前から慣れ親しんだ物や思い出の品を自由に持ちこまれており、少しでも自宅に似て安心出来る気分になれる環境を提供している。	各居室には長年使いなれたお気に入りの家具や調度品が持ち込まれ、花柄の防災カーテンが居室を明るくしている。亡夫の遺影や仏壇を持ち込み、月命日には僧侶にお経を読んでもらっている入居者もおり、安心して自宅のように暮らせる支援が見られた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室やトイレには認識出来るよう表示を掲げている。又浴室、トイレ、廊下には手すりを設け動線上には障害物等置かないよう安全にも配慮している。		